

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日
ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りが無いことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

M16C/63 グループ

リアルタイムクロックの使用例

1. 要約

この資料は、リアルタイムクロックの使用例について示します。

2. はじめに

この資料で説明する応用例は、次のマイコンでの利用に適用されます。

- ・マイコン : M16C/63 グループ

このアプリケーションノートのご使用に際しては、ハードウェアマニュアルの最新版を参照し、十分な評価を行ってください。

3. 応用例

3.1 応用例の説明

ここでは、リアルタイムクロック周期割り込み、リアルタイムクロックアラーム割り込みの使用方法について示します。

リセット後、LED を消灯し、ウェイトモードに移行します。

リアルタイムクロックアラーム割り込みが発生すると、ウェイトモードから復帰した後、日時表示モードに移行します。1 秒ごとにリアルタイムクロック周期割り込みが発生し、割り込み処理内で日時データを取得し、LED を点灯させる参考プログラム例について説明します。

図 3.1 に参考プログラムの状態遷移例を示します。

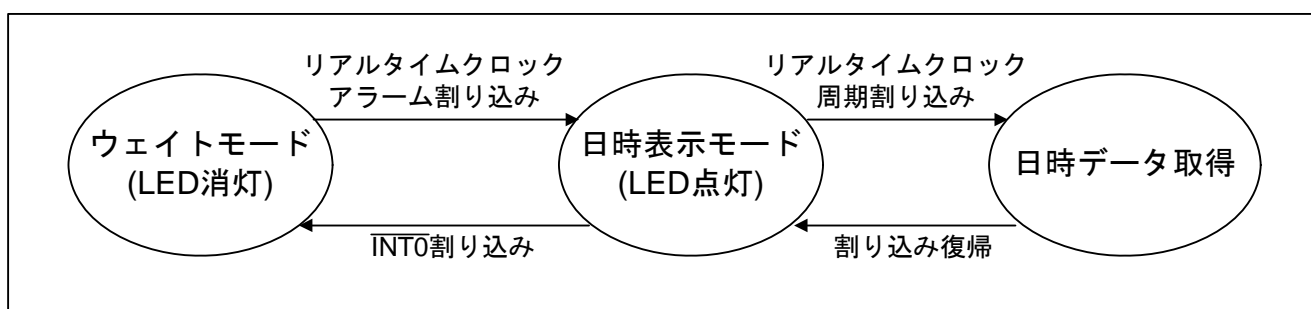


図 3.1 状態遷移例

3.2 応用例の動作

本アプリケーションノートの動作を以下に示します。

- (1) 現在の時刻を初期化し、リアルタイムクロックの設定を行います。
- (2) リアルタイムクロックをスタートします。
- (3) 現在の時刻から 3 分後をアラームデータとして設定します。分アラーム許可と時アラーム許可を設定します。RTCTICレジスタのILVL2~ILVL0 ビットを“000b” (割り込み禁止)にします。またINT0割り込みも禁止にします。
- (4) LED を消灯し、ウェイトモードへ移行します。
- (5) 現在の時刻がアラームデータと一致すると、リアルタイムクロックアラーム割り込みにより、ウェイトモードから復帰します。
- (6) INT0割り込み優先レベルを 7 に設定します。
- (7) 日時データをポートに出力します。
- (8)-1 1 秒ごとにリアルタイムクロック周期割り込みが発生し、リアルタイムクロック周期割り込み処理内で日時データを変数に格納し、(7)へ戻ります。
- (8)-2 INT0割り込みが発生すると、(3)に戻ります。

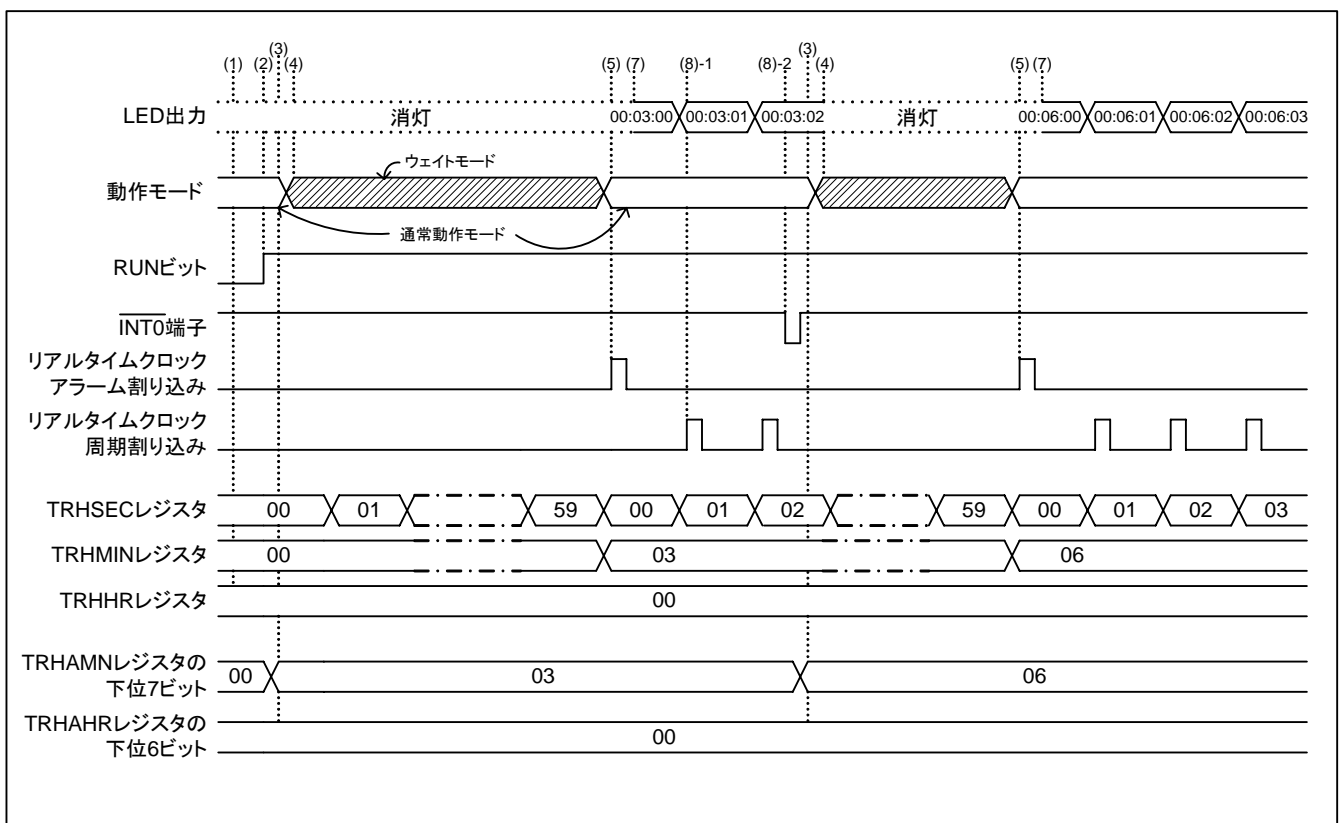


図 3.2 動作例

4. リアルタイムクロックモードの時刻読み出し手順および、アラームデータ書き込み手順

リアルタイムクロックモードでは、時刻データ(注1)のビットは、TRHSEC レジスタの BSY ビットが“0”(データ更新中ではない)のときに読み出してください。

また、複数のレジスタを読み出す場合、あるレジスタを読んだ後、別のレジスタを読むまでにデータが更新されると、結果的に誤った時刻を採用してしまいます。

アラームデータ(注2)のビットの書き込みについても同様に、BSY ビットが“0”のときに書き込んでください。

注1. 時刻データのビットは次のとおりです。

TRHSEC レジスタの SC12~SC10、SC03~SC00 ビット
 TRHMIN レジスタの MN12~MN10、MN03~MN00 ビット
 TRHHR レジスタの HR11~HR10、HR03~HR00 ビット
 TRHWK レジスタの WK2~WK0 ビット
 TRHCR レジスタの PM ビット
 TRHDY レジスタの DY11~DY10、DY03~DY00 ビット
 TRHMON レジスタの MO10、MO03~MO00 ビット
 TRHYR レジスタの YR13~YR10、YR03~YR00 ビット

注2. アラームデータのビットは次のとおりです。

TRHAMN レジスタの AMN6~AMN4、AMN3~AMN0 ビット
 TRHAHR レジスタの AHR5~AHR4、AHR3~AHR0 ビット
 TRHAHR レジスタの APM ビット
 TRHAWK レジスタの AWK2~AWK0 ビット

誤った時刻の採用を回避するための読み出し手順例、書き込み手順例を示します。

【割り込みを使用する方法】

リアルタイムクロック周期割り込みルーチン内で、時刻データのビットのうち、必要な内容を読み出す。同様に、アラームデータのビットのうち、必要な内容を書き込む。

【プログラムで監視する方法 1】

プログラムで RTCTIC レジスタの IR ビットを監視し、“1” (周期割り込み要求発生) になったら、時刻データのビットのうち、必要な内容を読み出す。

同様に、アラームデータのビットのうち、必要な内容を書き込む。

【プログラムで監視する方法 2】

「図 4.1 時刻データ読み出しおよび、アラームデータ書き込み」に示す手順で読み出し、または書き込みを行う。

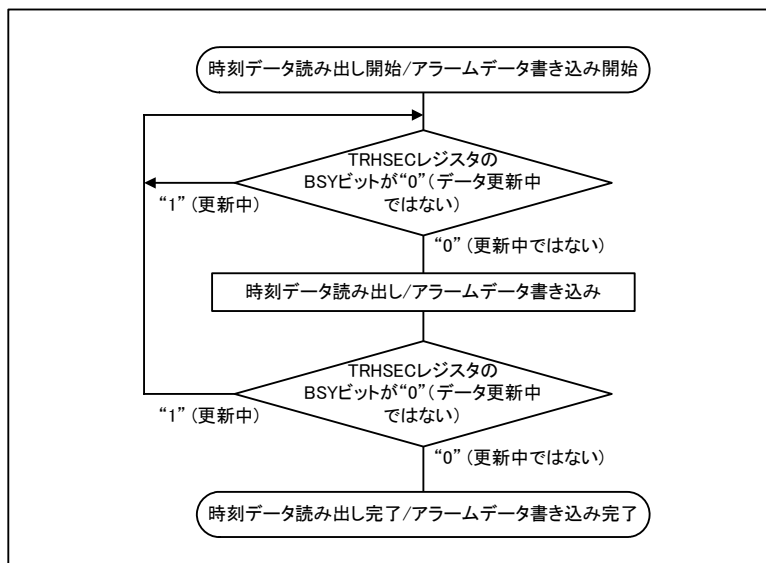


図 4.1 時刻データ読み出しおよび、アラームデータ書き込み

なお、複数のレジスタを読み出し、書き込みを行う場合は、できるだけ連続して読み出し、書き込みを行ってください。

本アプリケーションノートでは割り込みを使用する方法で時刻データ読み出しを行い、プログラムで監視する方法 2 でアラームデータ書き込みを行っています。

5. フローチャート

メインプログラムのフローチャートを図 5.1に示します。

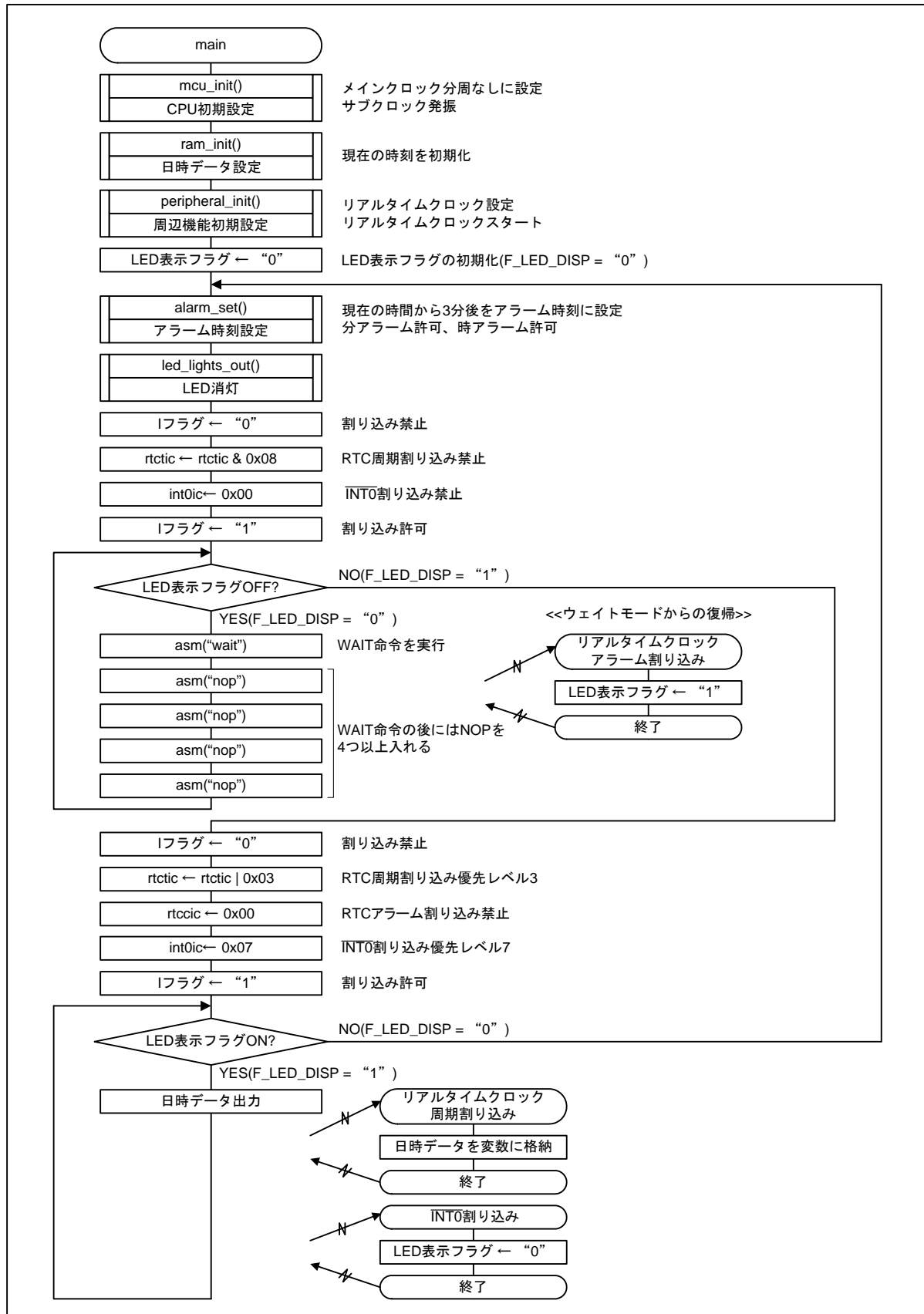


図 5.1 メインプログラムのフローチャート

アラーム時刻設定関数のフローチャートを図 5.2に示します。

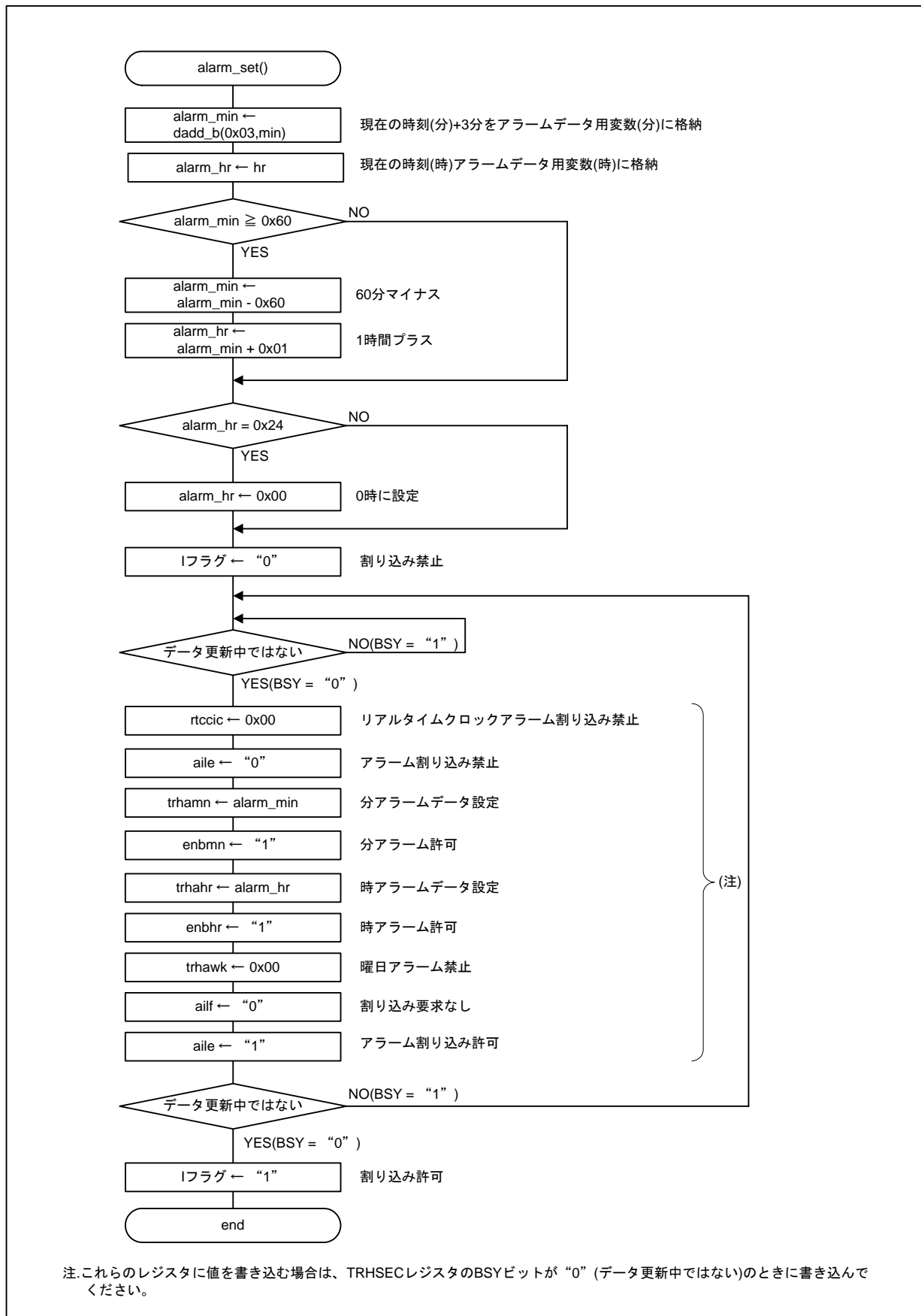


図 5.2 アラーム時刻設定関数のフローチャート

6. 構造体

宣言	<pre>struct FLAG{ unsigned char F_LED_DISP:1; }flag;</pre>	
変数	unsigned char F_LED_DISP:1	LED 表示フラグ
機能説明	LED 表示フラグ(1 ビット)の構造体です。	

7. 関数表

宣言	void ram_init(void)	
概要	日時データ設定関数	
引数	なし	
使用変数(グローバル)	変数名	使用内容
	unsigned char yy	年データ格納用変数
	unsigned char mm	月データ格納用変数
	unsigned char dd	日データ格納用変数
	unsigned char wk	曜日データ格納用変数
	unsigned char hr	時データ格納用変数
	unsigned char min	分データ格納用変数
	unsigned char sec	秒データ格納用変数
戻り値	なし	
機能説明	現在の時刻を初期化(09年01月01日木曜日00時00分00秒に設定しています)します。	

宣言	void peripheral_init(void)	
概要	周辺機能設定関数	
引数	なし	
使用変数(グローバル)	変数名	使用内容
	unsigned char yy	年データ格納用変数
	unsigned char mm	月データ格納用変数
	unsigned char dd	日データ格納用変数
	unsigned char wk	曜日データ格納用変数
	unsigned char hr	時データ格納用変数
	unsigned char min	分データ格納用変数
	unsigned char sec	秒データ格納用変数
戻り値	なし	
機能説明	リアルタイムクロックの設定と現在の時刻をレジスタに設定します。	

宣言	void alarm_set(void)	
概要	アラーム時刻設定関数	
引数	なし	
使用変数(グローバル)	変数名	使用内容
	unsigned char min	分データ格納用変数
	unsigned char alarm_min	分アラームデータ格納用変数
	unsigned char hr	時データ格納用変数
	unsigned char alarm_hr	時アラームデータ格納用変数
戻り値	なし	
機能説明	現在の時刻から3分後をアラームデータに設定し、分アラームと時アラームを許可します。	

宣言	void led_lights_out(void)	
概要	LED 消灯関数	
引数	なし	
使用変数(グローバル)	なし	
戻り値	なし	
機能説明	時刻出力ポートの値を初期化します。	

8. 設定方法

「3. 応用例」を実現するための設定手順と設定値を示します。各レジスタの詳細は M16C/63 のハードウェアマニュアルを参照ください。

8.1 リアルタイムクロックの設定

図 8.1～図 8.4にリアルタイムクロックの設定を示します。

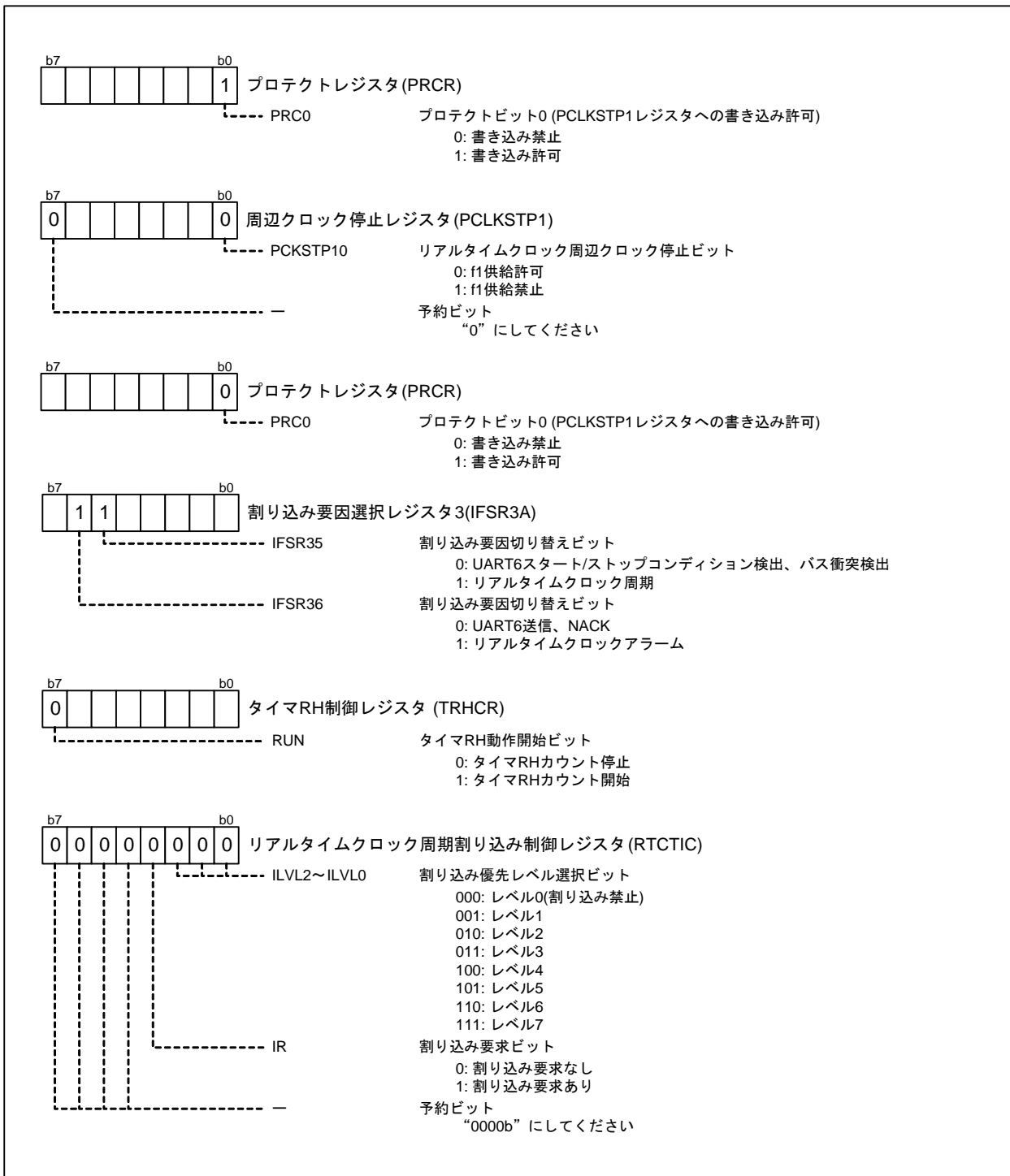


図 8.1 リアルタイムクロックの設定(1/4)

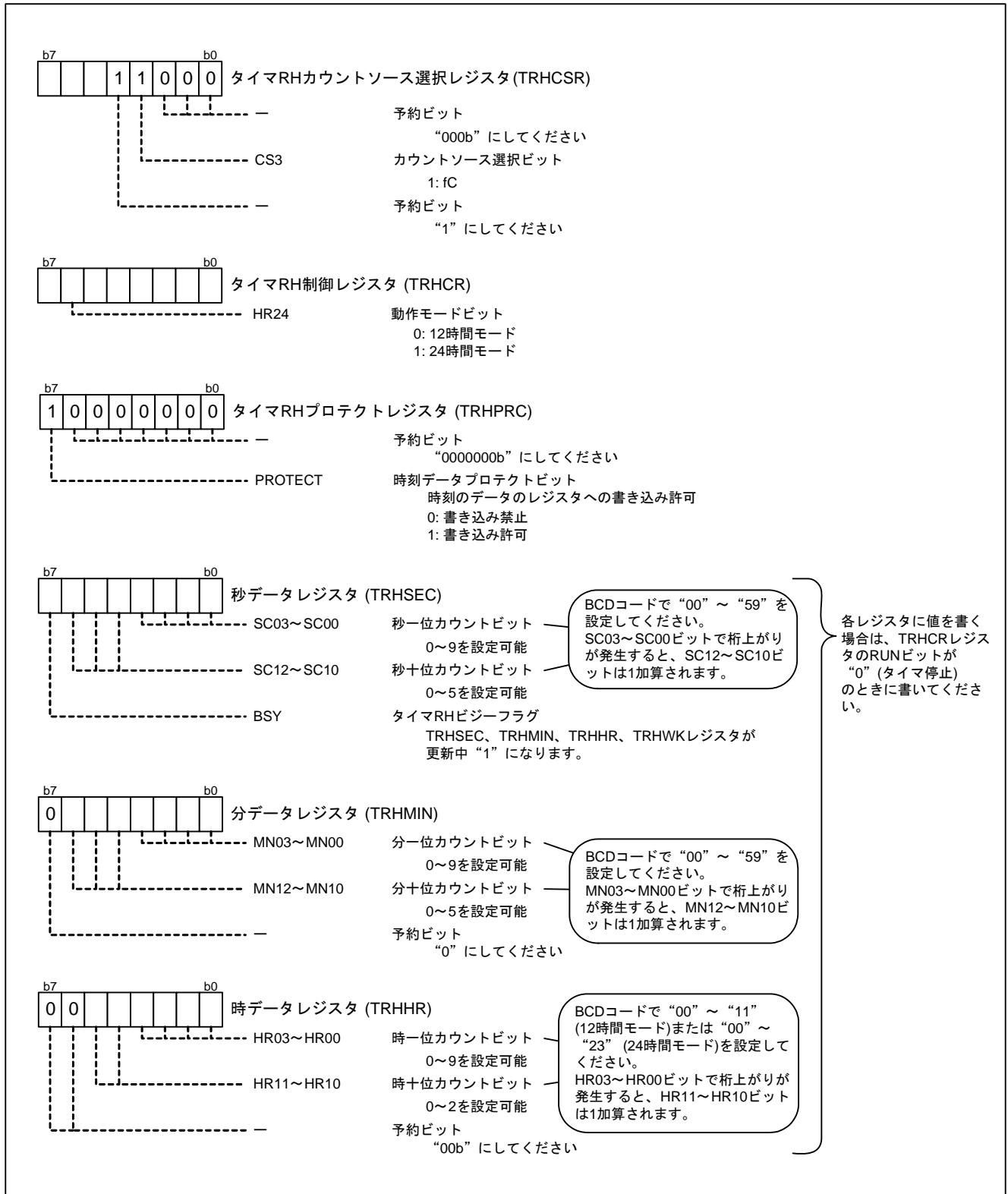


図 8.2 リアルタイムクロックの設定(2/4)

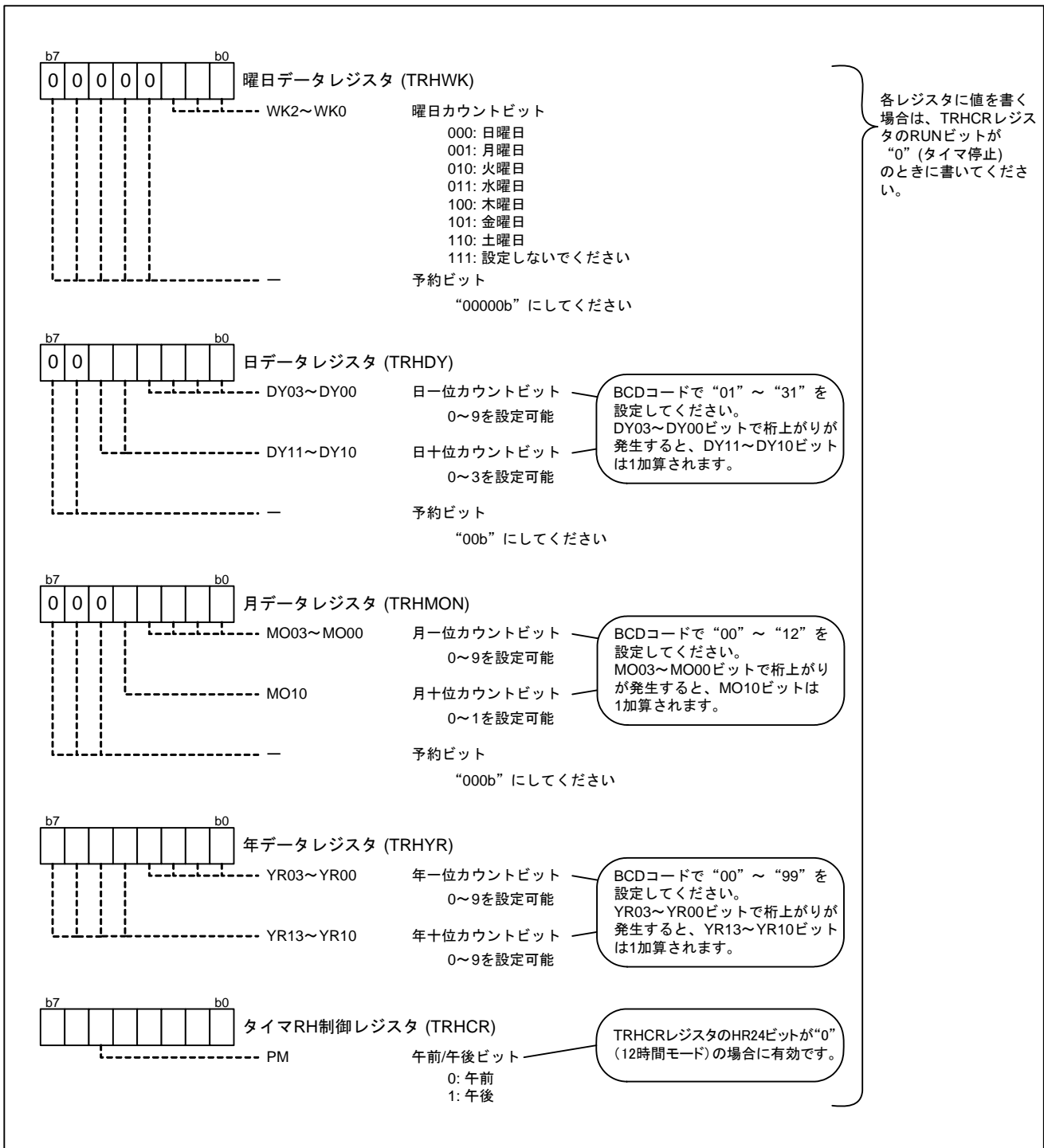


図 8.3 リアルタイムクロックの設定(3/4)

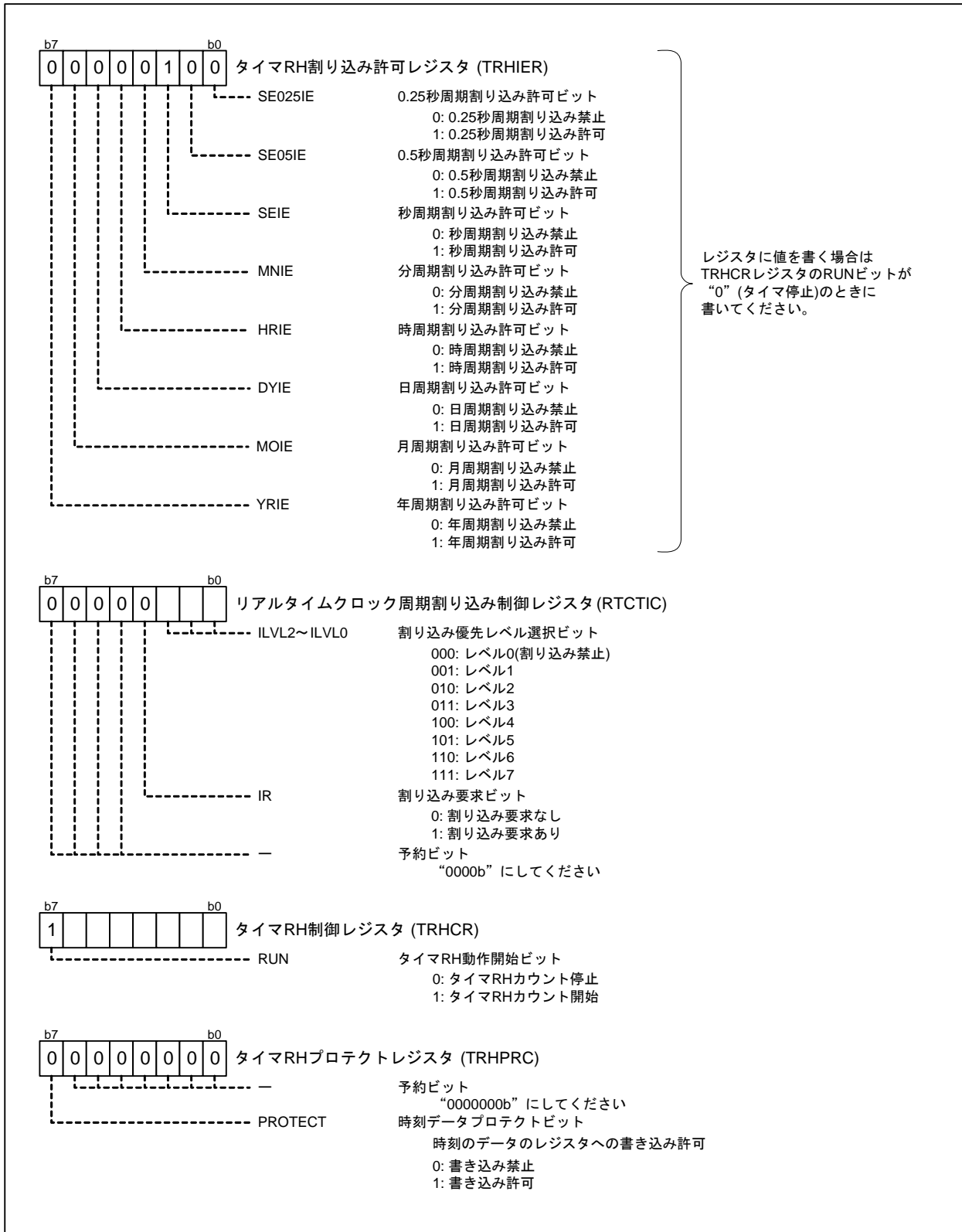


図 8.4 リアルタイムクロックの設定(4/4)

8.2 アラームデータの設定

図 8.5～図 8.6に、アラームデータの設定を示します。

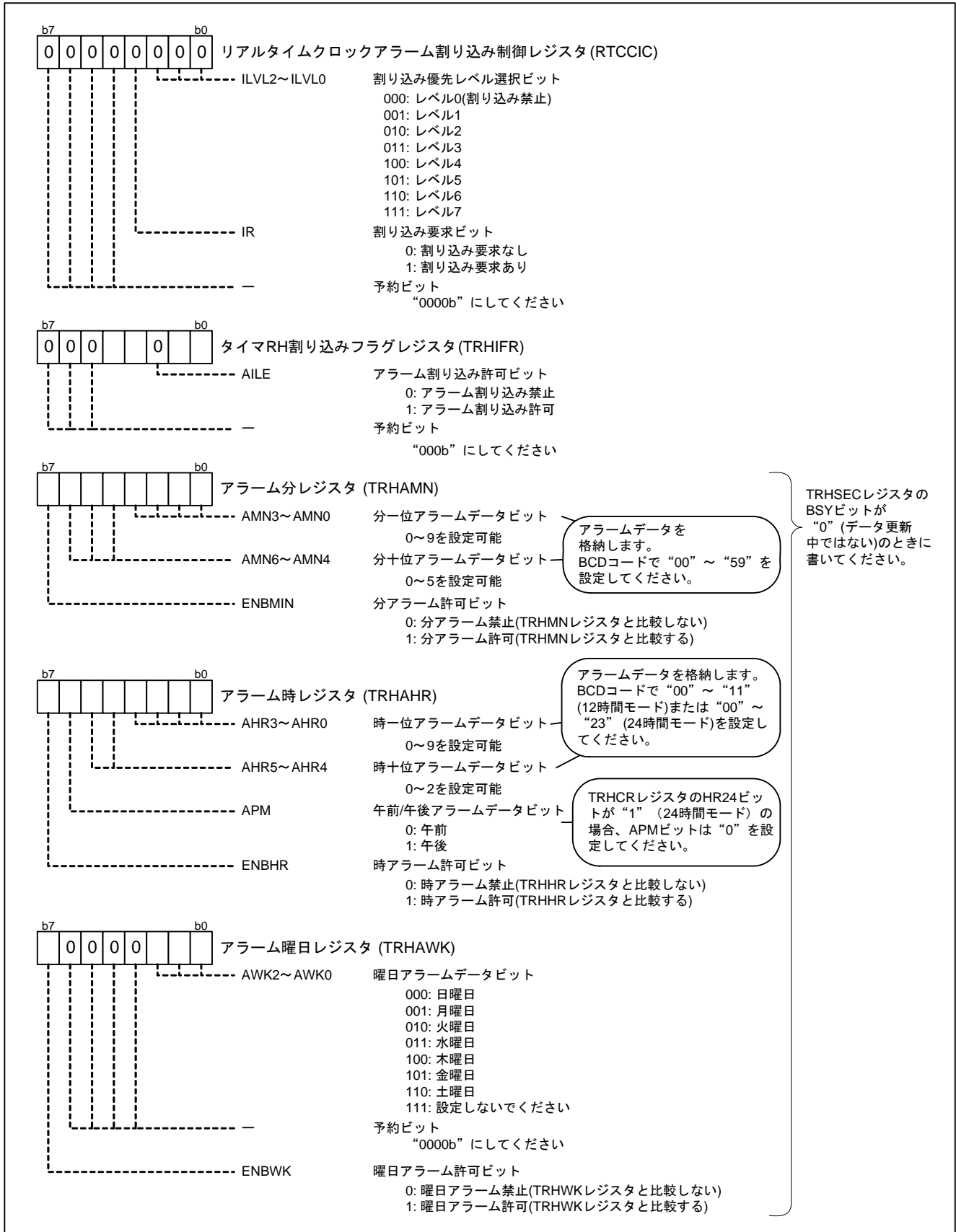


図 8.5 アラームデータの設定(1/2)

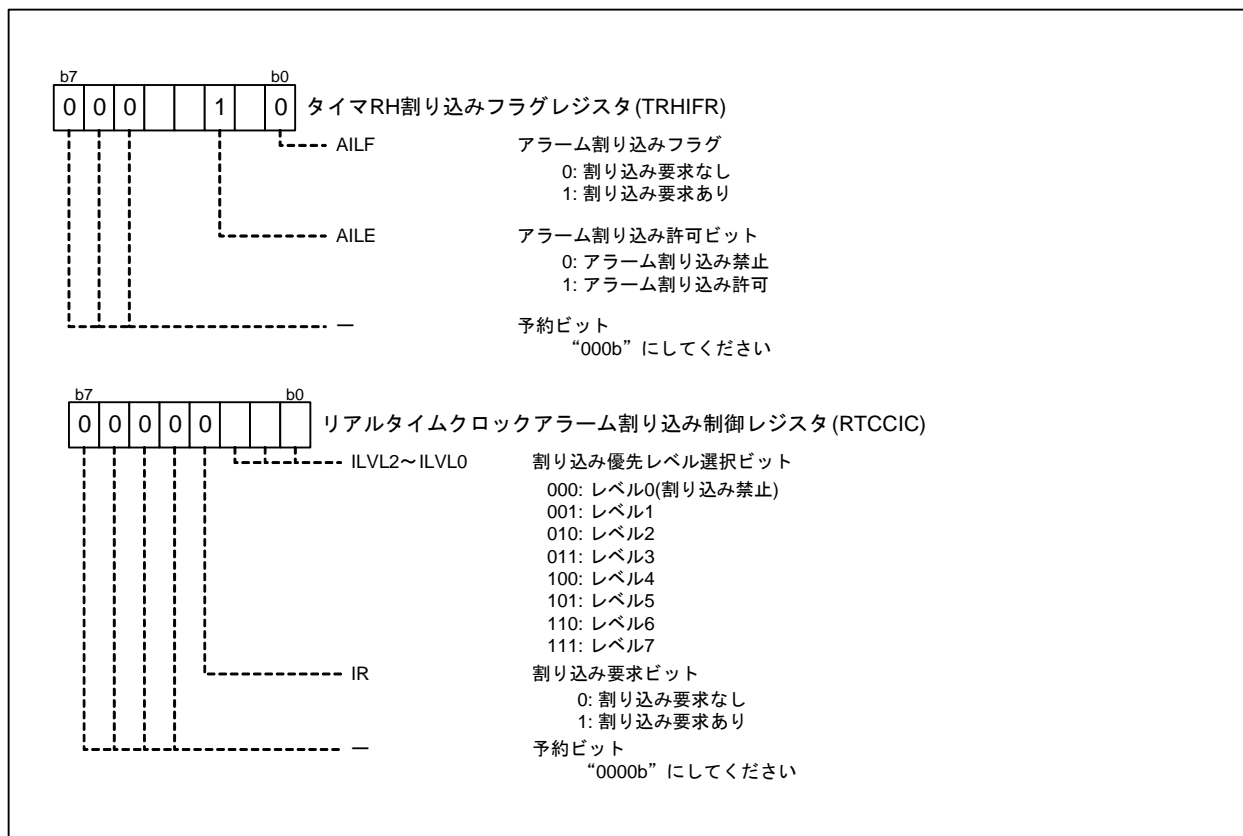
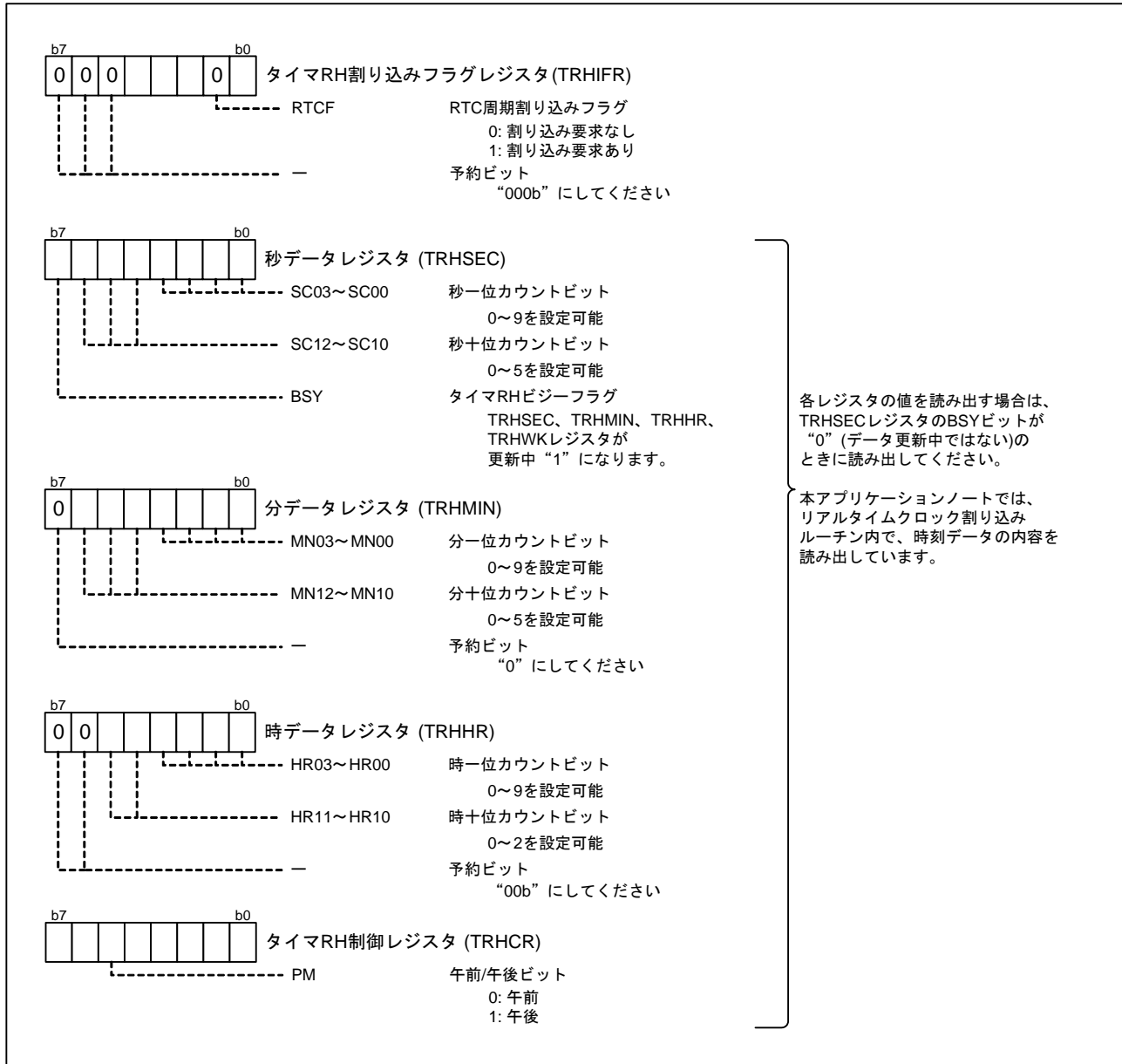


図 8.6 アラームデータの設定(2/2)

8.3 日時データの読み出し

図 8.7～図 8.8に、日時データの読み出しを示します。



各レジスタの値を読み出す場合は、TRHSECレジスタのBSYビットが“0” (データ更新中ではない)のときに読み出して下さい。

本アプリケーションノートでは、リアルタイムクロック割り込みルーチン内で、時刻データの内容を読み出しています。

図 8.7 日時データの読み出し(1/2)

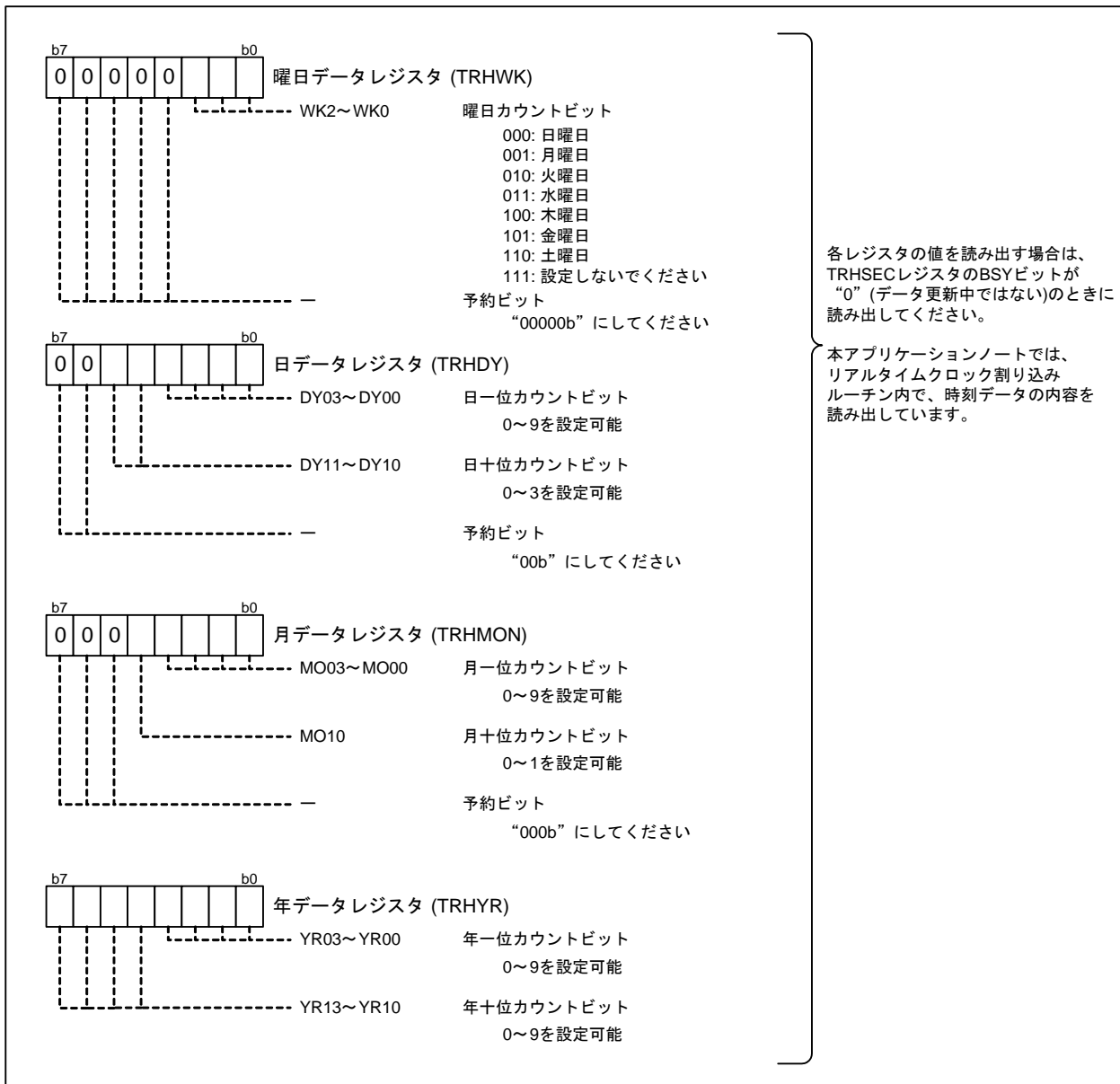


図 8.8 日時データの読み出し(2/2)

8.4 リアルタイムクロックアラーム割り込み処理

図 8.9にアラーム割り込み処理の設定を示します。

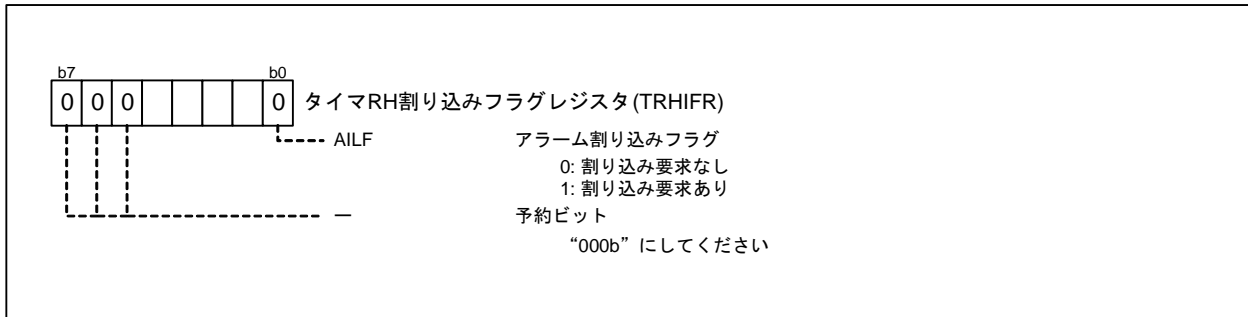


図 8.9 アラーム割り込み処理

9. 参考プログラム例

参考プログラムは、ルネサステクノロジホームページから入手してください。M16Cファミリのトップページの画面左メニュー「アプリケーションノート」をクリックしてください。

10. 参考ドキュメント

ハードウェアマニュアル

M16C/63 グループハードウェアマニュアル

(最新版をルネサステクノロジホームページから入手してください。)

テクニカルアップデート/テクニカルニュース

(最新の情報をルネサステクノロジホームページから入手してください。)

ホームページとサポート窓口

ルネサス テクノロジM16Cホームページ

<http://japan.renesas.com/m16c>

ルネサス製品全般に関するお問い合わせ先

<http://japan.renesas.com/inquiry>

E-mail : csc@renesas.com

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2009.03.31	-	初版発行

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

本資料ご利用に際しての留意事項

1. 本資料は、お客様に用途に応じた適切な弊社製品をご購入いただくための参考資料であり、本資料中に記載の技術情報について弊社または第三者の知的財産権その他の権利の実施、使用を許諾または保証するものではありません。
2. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例など全ての情報の使用に起因する損害、第三者の知的財産権その他の権利に対する侵害に関し、弊社は責任を負いません。
3. 本資料に記載の製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的、あるいはその他軍事情報の目的で使用しないでください。また、輸出に際しては、「外国為替および外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、それらの定めるところにより必要な手続を行ってください。
4. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例などの全ての情報は本資料発行時点のものであり、弊社は本資料に記載した製品または仕様等を予告なしに変更することがあります。弊社の半導体製品のご購入およびご使用に当たりましては、事前に弊社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、弊社ホームページ (<http://www.renesas.com>) などを通じて公開される情報に常にご注意ください。
5. 本資料に記載した情報は、正確を期すため慎重に制作したのですが、万一本資料の記述の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、弊社はその責任を負いません。
6. 本資料に記載の製品データ、図、表などに示す技術的な内容、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例などの情報を流用する場合は、流用する情報を単独で評価するだけでなく、システム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。弊社は、適用可否に対する責任を負いません。
7. 本資料に記載された製品は、各種安全装置や運輸・交通用、医療用、燃焼制御用、航空宇宙用、原子力、海中継用の機器・システムなど、その故障や誤動作が直接人命を脅かしあるいは人体に危害を及ぼすおそれのある機器・システムや特に高度な品質・信頼性が要求される機器・システムでの使用を意図して設計、製造されたものではありません（弊社が自動車用と指定する製品を自動車に使用する場合を除きます）。これらの用途に利用されることをご検討の際には、必ず事前に弊社営業窓口へご照会ください。なお、上記用途に使用されたことにより発生した損害等について弊社はその責任を負いかねますのでご了承願います。
8. 第7項にかかわらず、本資料に記載された製品は、下記の用途には使用しないでください。これらの用途に使用されたことにより発生した損害等につきましては、弊社は一切の責任を負いません。
 - 1) 生命維持装置。
 - 2) 人体に埋め込み使用するもの。
 - 3) 治療行為（患部切り出し、薬剤投与等）を行うもの。
 - 4) その他、直接人命に影響を与えるもの。
9. 本資料に記載された製品のご使用につき、特に最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件およびその他諸条件につきましては、弊社保証範囲内でご使用ください。弊社保証値を越えて製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、弊社はその責任を負いません。
10. 弊社は製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、特に半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。弊社製品の故障または誤動作が生じた場合も人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないよう、お客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計などの安全設計（含むハードウェアおよびソフトウェア）およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特にマイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
11. 本資料に記載の製品は、これを搭載した製品から剥がれた場合、幼児が口に入れて誤飲する等の事故の危険性があります。お客様の製品への実装後に容易に本製品が剥がれることがなきよう、お客様の責任において十分な安全設計をお願いします。お客様の製品から剥がれた場合の事故につきましては、弊社はその責任を負いません。
12. 本資料の全部または一部を弊社の文書による事前の承諾なしに転載または複製することを固くお断りいたします。
13. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせ、その他お気付きの点等がございましたら弊社営業窓口までご照会ください。

D039444